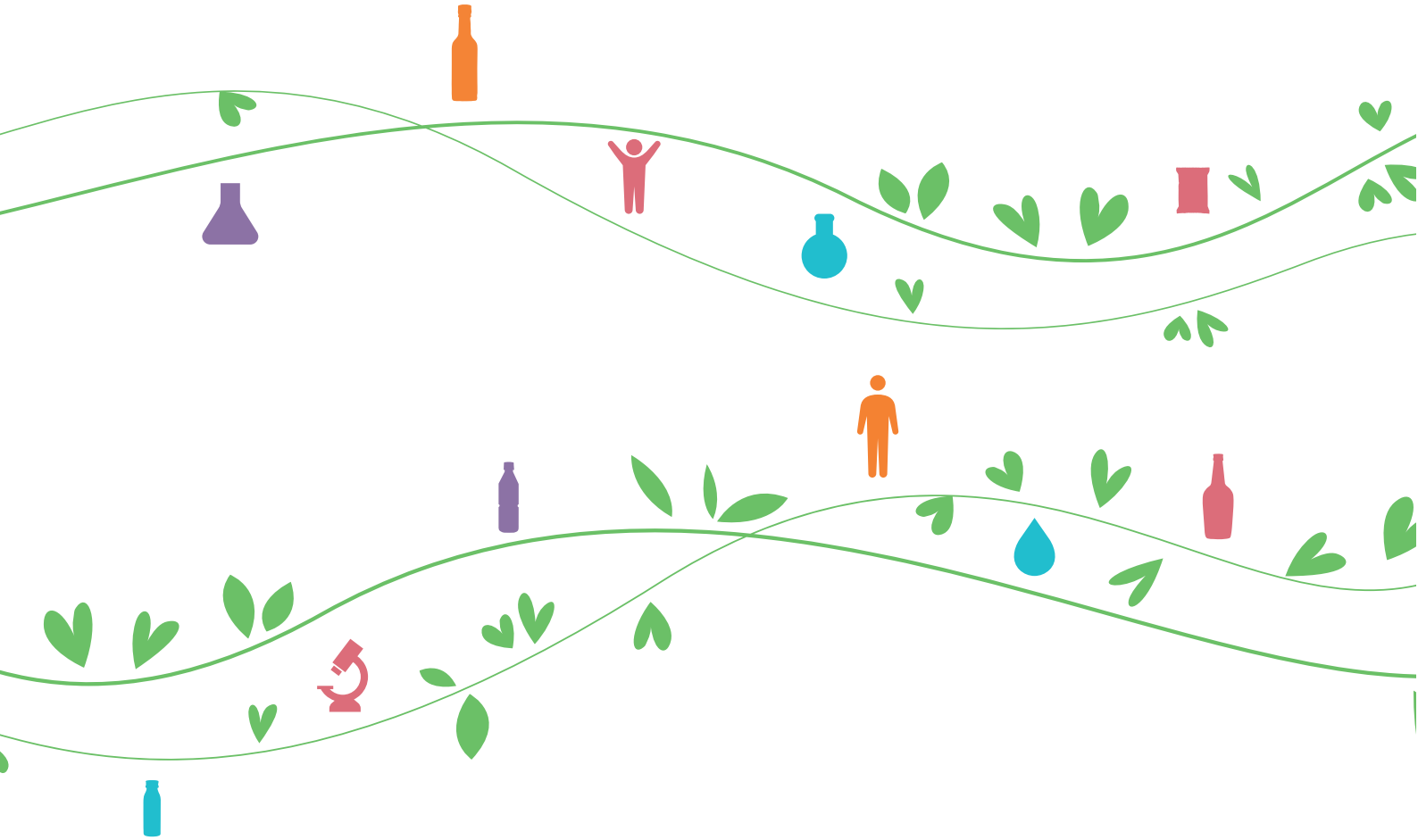
Yomeishu 次のすこやかさへ、一歩一歩

養命酒製造株式会社

Corporate book

コーポレートブック



目　次

Contents

経営理念 …… 2

代表メッセージ …… 3

会社の歩みと養命酒の歴史 …… 5

中期経営計画 …… 7

養命酒関連事業 …… 9

くらすわ関連事業 …… 11

生産・開発環境 …… 13

サステナビリティ …… 15

コーポレート・ガバナンス …… 17

会社情報 …… 20

時代をこえて受け継がれ、

積み重ねてきた知恵と技術を大切にしながらも、

私たちが立ち止まることはありません。

次のすこやかさへ、一歩一歩

お客様のすこやかな日々に寄り添うために

私たちは、たゆまぬ歩みで

新しい可能性を追求し続けます。

経営理念・ビジョン

経営理念

生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する

企業ビジョン

健全で、強い、良い会社

事業ビジョン

すこやかでより良い時間を願う人々を応援する

養命酒は、1600年頃、創始者塩澤宗閑翁の
健康への願いから創製されたとされており、
今日まで造り続けられてきました。
時代は移り変わっても、
私たちに連綿と受け継がれているのは、
生活者の皆様の健康生活に貢献しようとする精神であり、
養命酒製造株式会社の全ての事業は
この理念を基本としています。

私たちは、豊かな健康生活のお手伝いが
できることを誇りに思い、これからも皆様の信頼に対して、
最大限お応えできるよう努めてまいります。

代表メッセージ

代表取締役社長

田中　英雄

私たちは、経営理念のもと、心身の健康を願い、豊かで平和な生活を求めている生活者の皆様に満足していただける商品やサービスを提供いたします。

「養命酒」は今から400年以上前に、創始者塩澤宗閑翁の「世の人々の健康長寿に尽くしたい」という願いから信州・伊那谷で創製されました。より多くの皆様にお役立ていただくため、会社組織としたのが1923年（大正12年）です。健康に尽くしたいという創始者の想いは、現在も「生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する」という当社の経営理念に途切れることなく受け継がれ、事業活動の礎となっております。

養命酒は長年家庭薬として販売され、皆様のご家庭で健康を見つめ続けてまいりました。これもひとえに皆様の長年のご愛顧あってのことと、感謝しております。また、国内だけではなく、海外でも50年以上の販売の歴史を持っています。養命酒が国内外の皆様に愛されておりますことは、私どもの誇りであります。

当社は中期経営計画を2022年4月から2027年3月までの5年間としており、2023年に会社創立100周年を迎えるにあたりこの5年間で次の100年

の礎を作るべく、基本戦略を「次の100年に向けた成長投資と持続的成長基盤の確立」といたしました。

基本戦略をどう実現するかについては、顧客、マーケティング、サステナビリティの観点が欠かせません。お客様を創造する、お客様の満足を徹底的に追求するというお客様志向の観点、開発、製造、流通、プロモーションの一貫した生活者視点に基づくマーケティング戦略の観点、そして、企業の持続的な成長のためのサステナビリティの観点です。これら3つの観点を踏まえ、「両利きの経営」で基本戦略の実現を目指してまいります。両利きの経営とは、「知の探索」と「知の深化」を両立させることです。知の探索は新規事業の創造であり、時にはリスクを取ることも必要な未知の分野となりますが、試行錯誤を繰り返し、失敗を恐れず挑戦することと考えます。知の深化は、既存事業の収益力強化であり、既存の資産・組織能力を活用し、効率を追求し、堅実な戦略を取ってまいります。当社は、くらすわ関連事業で知の探索を、養命酒関連事業で知の深化を行うことで、収益性を確保しつつ成長投資を行い、新たな企業価値の創造に取り組みます。

戦略課題については、「効率を重視した既存事業の収益力強化」、「『くらすわ』ブランドを軸としたダイレクトチャネル事業の構築」、「サステナビリティ経営の推進」、「事業領域の拡大に向けた多様な人材活用と人的資本・知的財産等の無形資産への投資」の4つを策定しております。

サステナビリティについては、基本方針及び重要課題を5つ定め、取り組んでおります。当社の事業と解決すべき社会課題を踏まえて重要課題を考えた結果、課題の1つを健康と定めることといたしました。養命酒の販売や健康情報の発信で担う身体の健康のほか、建設中の体験型施設を通じた健康ライフスタイルの提案等によって、心のすこやかさにもフォーカスしていきたいと考えております。その他、環境、地域社会、人権・ダイバーシティ、ガバナンスを重要課題としております。

今中期経営計画最終年度の定量目標は、営業利益率10%、ROE4%です。次の100年に向け、これを一つの通過点とするべく、まずはこの達成に取り組んでまいります。

当社は、今後も様々な形で私たちの想いを生活者の皆様にお届けし、皆様のすこやかな時間に寄り添う企業を目指して取り組んでまいりますので、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

会社の歩みと養命酒の歴史

養命酒の歴史

「養命酒」を造っていた壺

1929年 昭和4年

ダルマ型大瓶 400mL

1950年 昭和25年

ダルマ型平型小瓶 180mL

1954年 昭和29年

ダルマ型徳用瓶 900mL

1957年 昭和32年

丸型大瓶 800mL

1959年 昭和34年

変形徳用瓶 1,000mL

1968年 昭和43年

ダルマ型大瓶 1,000mL

1600年頃

「養命酒」、伊那郡大草村（現:長野県上伊那郡中川村）の塩澤家当主、塩澤宗閑翁によって創製

人々に「養命酒」を分け与える塩澤宗閑翁

1923年 大正12年

長野県上伊那郡南向村（現:中川村）に株式会社天龍舘設立
塩澤家より「養命酒」の事業を継承

旧第一工場（「養命酒」発祥の地）

1925年 大正14年

東京府豊多摩郡渋谷町（現:東京都渋谷区）に天龍舘東京支店を開設、「養命酒」の全国販売に踏み出す

株式会社天龍舘名古屋支店

1951年 昭和26年

長野県諏訪郡川岸村（現:岡谷市）に岡谷工場を新設、商号を養命酒製造株式会社に改称

牛に乗って販促活動

1953年 昭和28年

京都府宇治市に関西支店（のち京都市を経て1971年に大阪市に移転、大阪支店と改称）を開設

旧本店社屋

1955年 昭和30年

東京証券取引所に上場

宣伝カーによる拡販活動

1961年 昭和36年

埼玉県入間郡鶴ヶ島村（現:鶴ヶ島市）に埼玉工場を新設（2006年に閉鎖）

埼玉工場

1964年 昭和39年

長野県岡谷市に技術研究所を開設

1972年 昭和47年

長野県駒ヶ根市に駒ヶ根工場を新設（同年岡谷工場を閉鎖）

駒ヶ根工場建設中の風景

2024年 令和6年

駒ヶ根工場敷地内に
「くらすわの森」をグランドオープン

くらすわの森（長野県駒ヶ根市）

2020年 令和2年

東京都墨田区に「くらすわ　東京スカイツリータウン・ソラマチ店」、長野県松本市に「和ダイニングくらすわ」を開業

2014年 平成26年

「鶴ヶ島太陽光発電所」に見学施設
「eコラボ（エコラボ）つるがしま」を開設

eコラボつるがしま（埼玉県鶴ヶ島市）

2013年 平成25年

埼玉県鶴ヶ島市に
「鶴ヶ島太陽光発電所」を開設

鶴ヶ島太陽光発電所（埼玉県鶴ヶ島市）

2010年 平成22年

長野県諏訪市に商業施設「くらすわ」を開業

くらすわ（長野県諏訪市）

2006年 平成18年

インターネット通信販売サイト「養命酒本舗」開設（2012年に「Yomeishuオンラインショップ」にリニューアル）

Yomeishuオンラインショップ

2005年 平成17年

大正製薬株式会社との業務・資本提携を発表
（2025年に業務・資本提携を解消）
駒ヶ根工場に「養命酒健康の森」
（現：くらすわの森）開設

本店新社屋

2002年 平成14年

養命酒創始400年記念式典開催

養命酒創始400年記念館

1994年 平成6年

本店新社屋が竣工

1989年 平成元年

1975年 昭和50年

中央研究所新棟が竣工

中央研究所新棟

長野県上伊那郡箕輪町に中央研究所を新設（同年技術研究所を閉鎖）
（2014年に商品開発センターに改称）

2021年 令和3年

「薬用養命酒」
1,000mL 700mL
パッケージ変更

2017年 平成29年

「薬用養命酒」
1,000mL 700mL
新容器採用と
パッケージ変更

2002年 平成14年

薬用ダルマ型
700mL

1985年 昭和60年

薬用ダルマ型
700mL

中期経営計画（2022年4月～2027年3月）

中期経営計画主要方針

経営理念

生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する

事業ビジョン

すこやかでより良い時間を願う人々を応援する

新中期経営計画

基本戦略

次の100年に向けた成長投資と持続的成長基盤の確立

既存事業の深化と新規事業の探索を同時に行う
「両利きの経営」の推進

戦略課題-①

効率を重視した
既存事業の収益力強化

戦略課題-②

「くらすわ」ブランドを
軸としたダイレクト
チャネル事業の構築

戦略課題-③

サステナビリティ経営の
推進

戦略課題-④

事業領域の拡大に向けた
多様な人材活用と
人的資本･知的財産等の
無形資産への投資

中計最終年度（2027年3月期）定量目標

営業利益率 10%

ROE 4%

･効率を重視した既存事業の収益力強化により、営業利益率10%
･財務健全性に留意しながら成長投資を行うことで資本効率を高めつつ事業を拡大し、ROE（自己資本利益率）4%

戦略課題

効率を重視した既存事業の収益力強化

「養命酒」及び「酒類・食品」の卸売販売を中心とする既存事業においては、開発、製造、流通、プロモーションの一貫したマーケティング戦略立案部署を設置し、生活者視点に基づくマーケティング戦略の展開強化を図ります。また、デジタル技術を活用した事業展開と生産性の向上を推進してまいります。

「くらすわ」ブランドを軸としたダイレクトチャネル事業の構築

これまで商業施設を中心に展開してきた「くらすわ」について、「広げる、すこやかなくらしの輪（おいしい体験、たのしい体験、すこやかな体験）」をコンセプトとしたブランド化に重点を置き、実店舗でのお客様とのコミュニケーションを通じて商品の機能や世界観、歴史、ライフスタイルに共感いただくことで通信販売やギフト向け販売と一体となった事業化を図ってまいります。その取り組みとして、駒ヶ根工場敷地内にブランドシンボルとして新たに体験型施設を開業し、ブランド強化とビジネスモデルの構築を目的に企業買収、業務提携も視野に入れてまいります。

サステナビリティ経営の推進

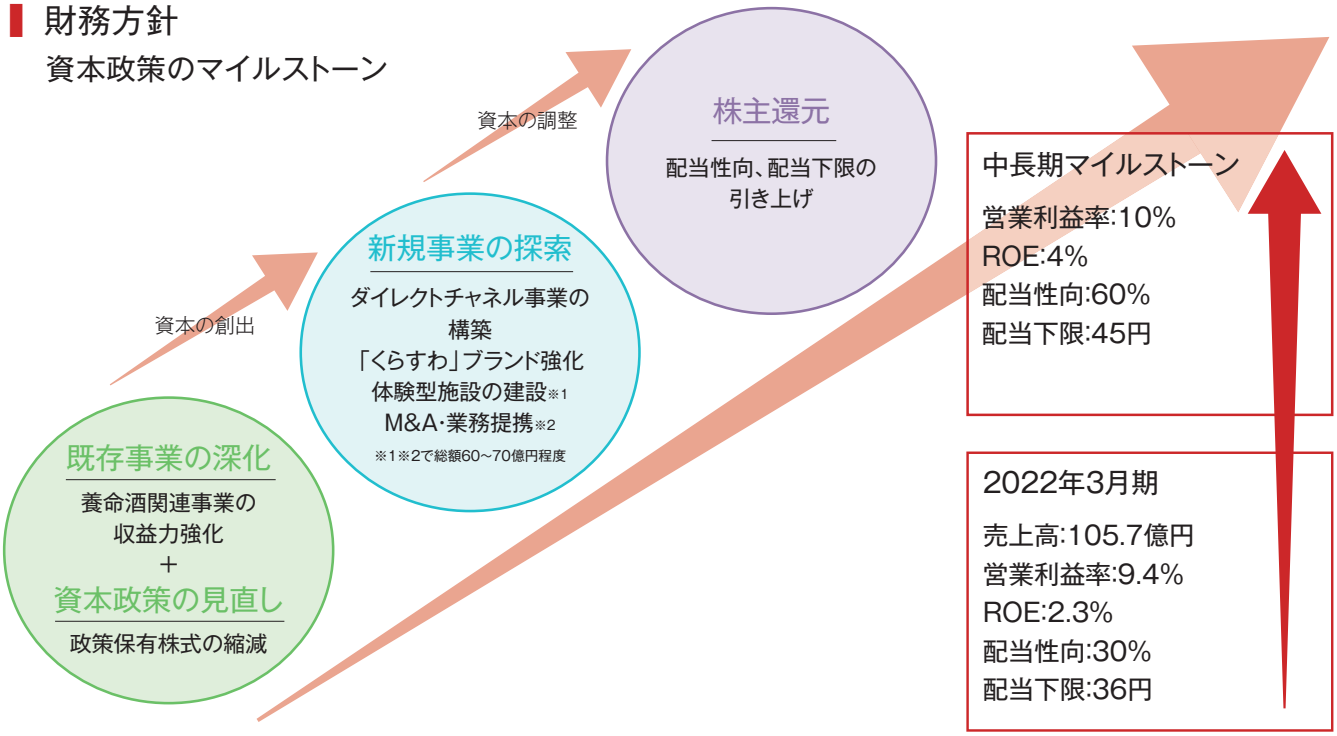
当社の長期的な企業価値向上にとって持続可能な社会の実現は、重要な経営課題と認識しております。当社はサステナビリティに関する基本方針を定め、「養命酒」を中心とした当社商品・サービスを通じた社会的な健康の増進、駒ヶ根工場を中心とした環境負荷の低減、ゆかりある長野県を中心とした地域との共生と自然環境保全活動として、駒ヶ根工場敷地内に建設予定の体験型施設を通じた地域社会への貢献等を推進してまいります。

事業領域の拡大に向けた多様な人材活用と人的資本・知的財産等の無形資産への投資

既存事業を深化させ、新たな事業領域への探索に進むには、人的資本が最も重要な経営資本と認識しており、事業戦略に基づく人材開発と多様な人材の積極的起用による活力ある企業文化の醸成を進めてまいります。また、長い歴史の中で蓄積してきたブランド、ノウハウ、顧客基盤を含めた知的財産は、当社の企業価値を支える重要なものと認識し、より一層の価値向上と活用の強化に努めてまいります。

財務方針

資本政策のマイルストーン



既存事業の深化として、養命酒関連事業の収益力強化を図りながら政策保有株式の縮減も行ってまいります。これらにより創出した資本を新規事業の探索のための成長投資に活用し、配当性向・配当下限を引き上げ、株主の皆様に還元してまいります。

すこやかな毎日を送っていただくために

暮らしに寄り添いながら
皆様の健康をサポートいたします。
「薬用養命酒」「酒類･食品」等の商品展開、
海外事業、不動産賃貸、太陽光発電所の
運営等に取り組んでいます。

薬用養命酒 第2類医薬品

生活者の健康に寄り添う

薬用養命酒とは

「薬用養命酒」は、14種類の自然の生薬の薬効成分が溶け込む薬酒です。生薬とアルコールの協力作用によって、全身の血行を良くし、新陳代謝を活発にしながら体調を整えます。私たちの体に備わる治癒力を高め、この働きが低下していることで起きるさまざまな症状を体の内側から改善するという特徴があります。日々の暮らしの中で少しずつお飲みいただくことによって、体本来の健康に導きます。

薬用養命酒の7つの効きめ

「薬用養命酒」は食前又は就寝前に１回20mLずつ付属のカップでお飲みいただきます。肉体疲労、胃腸虚弱、冷え症、虚弱体質、食欲不振、血色不良、病中病後の滋養強壮に効果を発揮していきます。

薬用養命酒の配合生薬

「薬用養命酒」には、東洋医学の考え方に基づき、人参など「体質の不足を補う」生薬、桂皮など「体を温める」生薬、紅花など「血行をよくする」生薬が処方されています。生薬は複数種を組み合わせて用いると、互いに良いところを引き出し、効き目の幅が広がったり強まったりする特徴があります。

海外事業

世界の人々のすこやかな暮らしのために

主に４市場（香港・マレーシア・シンガポール・台湾）へ「養命酒」を海外輸出しています。輸出の歴史は長く、香港、マレーシア、シンガポールへは50年以上、台湾へは20年以上にわたり、各国・地域の文化や市場環境を踏まえた販売を行っています。

酒類の輸出は、クラフトジンに注力しており、販路を広げています。

香の雫

酒類･食品

ハーブの魅力を引き出す/生活に取り入れやすい商品の提案

酒類

長年の知見を活かしてハーブが織りなす香りや味わいを引き出した、オリジナリティ溢れるお酒を製造販売しています。近年では、クラフトジンにも取り組んでおり、爽やかな香りと深い奥行きを生み出した「香の森」「香の雫」は世界的な酒類の品評会で受賞いたしました。

香の雫

香の森

食品

ハーブのエキスを配合したのど飴や、手軽でおいしいお粥、昔から親しまれてきた食品にあったら嬉しい機能をプラスした機能性表示食品等、様々な生活シーンで取り入れていただけるような、美味しく健康感のある商品を開発販売しています。

五養粥

養命酒製造
クロモジのど飴

不動産賃貸･太陽光発電

保有資産の有効活用のため、不動産賃貸を行っております。

埼玉県鶴ヶ島市にて行っている太陽光発電については、環境への負荷低減、電力供給懸念の対策に加え、併設の環境教育施設「eコラボ（エコラボ）つるがしま」を通して地域の環境教育などの社会貢献活動にも寄与してまいります。年間予想発電量は、一般家庭400～500世帯分の電力消費量に相当します。

鶴ヶ島太陽光発電所

おいしい体験、たのしい体験、すこやかな体験をお届けしたい

「店舗」、「通販」等に
取り組んでいます。

くらすわとは

くらすわは、2010年、長野県諏訪湖畔の「くらすわ本店」から始まったブランドです。
お客様にすこやかになっていただける商品やサービスを提供してまいります。

ブランドコンセプト

広げる、すこやかなくらしの輪

一つひとつ手に取り、満足できるモノを探す手間。
たくさんの情報の中から、本当に良いモノを選ぶ難しさ。
試すことを躊躇してしまう価格。あたりまえの悩みだと諦めてほしくない。
だから私たちは「良質な本物」を、多くの人に出会えるカタチにアレンジし、皆さまへお届けしています。
これからも何処までも、すこやかなくらしの輪を広げ続けます。

表現する3つの体験

おいしい体験
素材選びは手間暇を惜しまず、心を込めて。その土地その土地の良いモノを厳選し、お届けします。

たのしい体験
日々のくらしのなかで、たのしい瞬間を増やしたい。その想いから、お届けするモノの佇まいや味わい方にもこだわります。

すこやかな体験
健康に繋がる安心・安全。すこやかなくらしのために、皆さまのこころとからだの元気を支え続けるブランドでありたいと思っています。

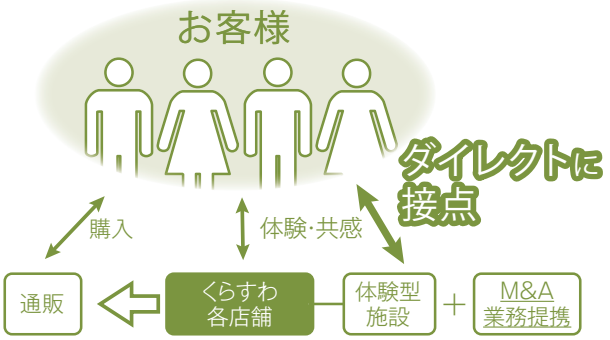
ブランドロゴ

くらすわ
CLASUWA

表現する３つの体験を３本の円弧で表現。それらがゆるやかに繋がり、くらしをすこやかにするやさしい輪となります。あえて均一な円ではない柔軟さを感じさせる形状にすることで、形を変えながら多様な人のくらしに寄り添うことのできる親しみや安心感を表現しています。

くらすわブランドを軸としたダイレクトチャネル事業の構築

「くらすわ」のブランド化に重点を置き、実店舗でのお客様とのコミュニケーションを通じて通信販売と一体となった事業化を図ります。その取り組みとして、駒ヶ根工場敷地内にブランドシンボルとして新たに体験型施設の建設を進めているほか、ブランド強化とビジネスモデルの構築を目的に企業買収、業務提携の検討も進めてまいります。



店　舗

くらすわのおもてなしをご体感ください。

ショップ

すこやかな生活をおくりたいと望む方のために、くらしの中に手軽に取り入れていただける商品を中心に、食品・飲料、日用雑貨、ギフト等をご用意しております。

ベーカリー&カフェ

生地にこだわった、品ぞろえ豊かな焼きたての自家製パンを、挽きたてのオリジナルブレンドコーヒーやハーブティー等のお飲み物と一緒にお楽しみいただけます。

レストラン

信州十四豚（しんしゅうジューシーポーク）等のオリジナルブランド食材と、豊かな自然の恵みで育った旬の野菜や果物の素材を活かした料理をお楽しみいただけます。

通販

「すこやかさ」をご自宅へお届け

日本中の方へくらすわの「すこやか」な体験を実感していただけるように、通信販売サイトをご準備しております。くらすわこだわりの商品をご自宅に。大切な方への贈り物に。日本中どこからでも、誰にでも、くらすわの「すこやか」な商品をお届けいたします。

Yomeishu
オンラインショップ

体験型施設「くらすわの森」

くらすわの世界観を実際に体感いただける施設として、駒ヶ根工場敷地内に体験型施設「くらすわの森」を建設。2024年10月にグランドオープンしました。

新事業

くらすわブランドの強化とビジネスモデルの構築のため、企業買収、業務提携の検討を進めております。

緑豊かな駒ヶ根工場から「安心・安全」をお届けするために

中央アルプスと南アルプス、
ふたつのアルプスを望む長野県駒ヶ根市。
澄んだ空気と清らかな水が、
私たちの製品づくりの原点です。

駒ヶ根工場（長野県駒ヶ根市）

駒ヶ根工場は、当時としては珍しい、お客様に製造工程をご覧いただけるよう見学ラインを設けた工場として、1972年に開設いたしました。また、緑豊かな恵まれた景観をご覧いただくため、電線や配管は全て地下共同溝に敷設しているほか、構内は自然の傾斜を利用しているなど、自然と共存する工場を目指しています。

豊かな自然と水

3,000m級の山々が連なる中央アルプスと南アルプス。その間を流れる天竜川。駒ヶ根工場はこうした環境に抱かれた標高800mの高原にあります。敷地は約36万㎡で、その約70%が自然の森林に覆われています。

当工場では、「薬用養命酒」「クラフトジン」などの商品を製造しています。工場立地の決め手となったのは、水の品質の良さです。この地の地下水は中央アルプス空木岳の花崗岩層に磨かれた軟水で、製造に最適であるといわれています。

また、工場敷地の森林は、継続的に下草刈りや間伐を実施し、多様性のある豊かな森林の維持に努めています。森林整備が行き届くことは地下水の涵養、保全に繋がることから、持続性の観点を持って、取り組みを続けてまいります。

安心・安全への取り組み

独自の品質管理基準「Y-GMP」

「薬用養命酒」は、原料から製品に至るまで、工程毎の厳重な品質管理の下、医薬品等の製造管理と品質管理に関する基準であるＧＭＰ（Good Manufacturing Practice）に基づいて製造を行っています。工場における品質部門と製造部門が連携し、品質管理と製造管理の両面からより良い製品を工場から送り出せるよう日々努めています。

工場見学

駒ヶ根工場では、原料や原酒の製造から、調整、瓶詰、包装に至るまで、全てのプロセスで品質の向上に取り組んでいます。

工場見学として、四季を感じるジオラママップやフォトスポットのある「エントランスゾーン」、実物大のタンクとプロジェクションマッピングで養命酒のことをより知ることができる「ディスカバリー養命酒ゾーン」、製造ラインの一部を間近で見られる「ファクトリーゾーン」、巨大ビンがお出迎えし、オリジナル商品の購入ができるショップが併設された「工場見学ショップゾーン」があり、予約不要で自由にご覧いただけます。

商品開発センター

1975年に設立した「中央研究所」を、新商品の開発・研究に注力する部門としての位置付けをより明確にするため、2014年に「商品開発センター」へ名称変更いたしました。

商品開発センター（長野県上伊那郡箕輪町）

商品開発

「養命酒」の製造で培ってきたハーブの知見や製造技術を活かし、おいしく、健康感のある商品のほか、近年では通信販売や海外市場向けなど、様々なカテゴリーの商品を開発しています。

酒類については、お酒に様々なハーブを浸漬し、素材の持つ力と自然な風味を引き出した商品の開発を行っています。近年ではリキュールに加え、ジン（蒸留酒）なども開発し、商品の幅を広げています。

食品については、ハーブや素材の持つ健康感や機能性に着目し、生活のワンシーンに取り入れやすく、不足しがちな栄養素や成分を手軽に補える商品を開発しています。

これからも「生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する」という経営理念の実現に向け、当社ならではの安心・安全な商品開発に取り組んでまいります。

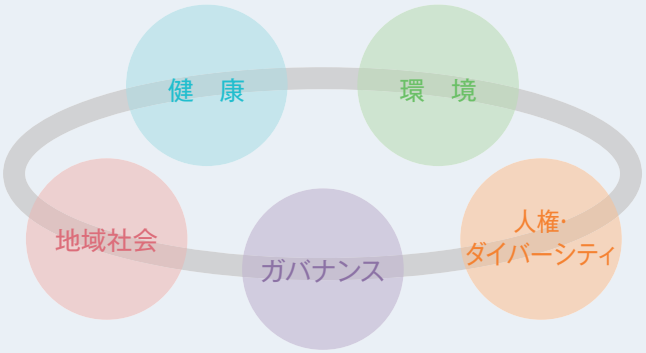
基本方針

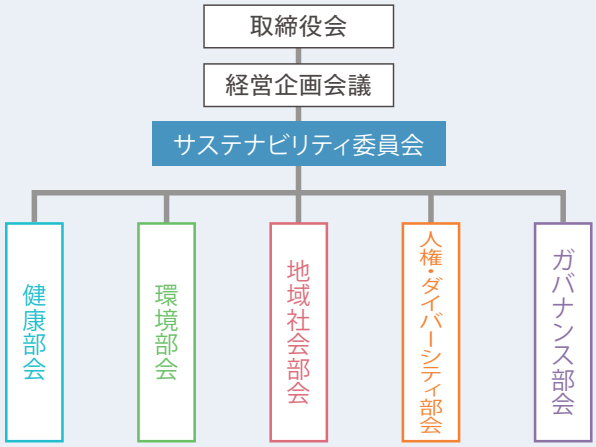
サステナビリティ基本方針

当社は、「生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する」という経営理念の下、すこやかでより良い時間を願う全ての人々のため、社会・環境問題をはじめとするサステナビリティをめぐる課題に積極的・能動的に取り組み、事業活動を通じて、平和、持続可能な生活、自然との共存、子供たちの未来や地域社会への貢献を目指し、多様性豊かな世界を応援する視点をもって、企業価値の向上に努めます。

「Environment（環境）」、「Social（社会）」、「Governance（ガバナンス）」に関する課題に適切に対応することで、事業リスクの低減と事業機会の拡大による、持続的な企業価値の向上を図り、SDGsの目指す持続可能な社会の実現に貢献します。

重要課題･組織図





戦略

健　康　心身の健康の増進

Why　なぜ取り組むか	当社は創業より、生活者の健康生活に貢献したいという想いのもと、長年「養命酒」をはじめとする商品やサービスの提供に努めてまいりました。 健康とは、からだが良好な状態であることだけではなく、毎日の生活で感じる喜びや癒しによる、こころのすこやかさも含まれると私たちは考えます。 生活者のからだとこころが健康である世界を目指し、その実現のために、「健康寿命の延伸」、「生活の質の向上」、「商品･サービスの品質向上と安全」という社会課題に取り組んでまいります。
What　何に取り組むか	基本方針:養命酒及び当社の研究によって開発･製造する商品やサービスで人々の健康を増進する ●からだのすこやかさ　･健康寿命延伸への貢献 ●こころのすこやかさ　･生活の質（QOL）向上への取り組み ●品質向上、安全　･商品･サービスの品質向上と安全
SDGs目標	3 すべての人に健康と福祉を　4 質の高い教育をみんなに　8 働きがいも経済成長も　17 パートナーシップで目標を達成しよう

環　境　環境負荷の低減

Why　なぜ取り組むか	当社は、自然環境との調和と共生により成り立っています。「養命酒」は、自然と水の恵みを受け、エネルギー使用を抑えた環境にやさしい製法で現在も造られています。この豊かな自然環境を次世代へ引き継いでいくことが責務と、私たちは考えています。 私たちは、サステナビリティ基本方針の下、「気候変動への対応」、「資源循環型社会の構築」に取り組んでまいります。
What　何に取り組むか	基本方針:事業活動の基盤となる「気候変動への対応、持続可能な容器包装･水資源、資源循環型社会の構築」に取組み、環境との調和と共生を図る ●気候変動への対応、資源循環型社会の実現 ･CO_2排出量の削減　･再生可能な生物資源と持続可能な容器包装の実現　･水使用量の削減と水源地保全 ･食品廃棄物の再資源化、フードロス削減　･資材･廃棄物の削減･リサイクル率の向上、省資源化
SDGs目標	2 飢餓をゼロに　6 安全な水とトイレを世界に　7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに　11 住み続けられるまちづくりを　12 つくる責任 つかう責任　13 気候変動に具体的な対策を　14 海の豊かさを守ろう　15 陸の豊かさも守ろう　17 パートナーシップで目標を達成しよう

地域社会　地域社会への貢献

Why　なぜ取り組むか	創業の地であり、現在も生産工場や商業施設などを有している所縁ある長野県をはじめとした地域とのつながりやその地域の自然の恵みを守っていくことは、これからも当社が事業活動を続けていくうえで不可欠なものと認識しています。 今後は特にくらすわ事業を通じた地域の活性化や生活者が集い、安心して暮らせる持続可能なまちづくりに貢献してまいります。
What　何に取り組むか	基本方針:くらすわ事業を通じた地域社会への貢献を拡大する ●地域活性化 ・雇用、観光等を通じた地域社会の発展　・地域経済の活性化につなげる仕入調達 基本方針:生活者が集い、安心して暮らせる持続可能なまちづくりに貢献する ●持続可能なまちづくり ・地域の自然環境保全　・地域コミュニティとの共生
SDGs目標	3 4 6 8 11 12 13 15

人権・ダイバーシティ　多様な人材の活用

Why　なぜ取り組むか	当社は、経営理念「生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する」の下、平和、持続可能な生活、自然との共存、子供たちの未来や地域社会への貢献を目指し、企業価値の向上に努めております。私たちはこの目的を達成するため、多様な人材の積極的起用による活力ある企業文化の醸成と人権、ダイバーシティを尊重した組織風土づくりが必要なものと考え、従業員がいきいきと活躍する組織体制の構築とステークホルダーとの公正な関係構築を目指してまいります。
What　何に取り組むか	基本方針:人権と平和を擁護し、多様性に配慮した事業活動を通じて、皆が働きやすく、活躍できる社会の実現に貢献する ●多様性を尊重した風土づくり ・ワークライフバランスの追求　・社内コミュニケーションの深化　・人材育成 ●くらすわ事業推進に向けた組織体制の強化 ・事業戦略に基づいた人材戦略の遂行　・就労環境の整備 ●社内外における人権デュー・ディリジェンスへの対応 ・ステークホルダー(従業員、調達先)の人権保障　・ステークホルダーとの公正な関係構築
SDGs目標	3 4 5 8 10 16

ガバナンス　ガバナンスの強化

Why　なぜ取り組むか	当社の持続的な企業価値の向上および、持続可能な社会の実現に貢献するために、経営の意思決定体制の強化と迅速性の向上や、経営監督機能の強化などによって、強固なコーポレートガバナンス体制を構築するとともに、法令遵守の徹底、社会規範の尊重、企業倫理の確立並びにリスクマネジメントの推進などを通じて、自律的な対応を図ってまいります。
What　何に取り組むか	基本方針:公正に事業を行う組織としてガバナンスを強化し、社会への説明責任を果たす ●ガバナンス ・サステナビリティ経営の推進　・コンプライアンスの強化　・リスクマネジメント　・情報管理
SDGs目標	13 15 16

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス体制

社会や市場の要請にお応えする能力をより一層高め、ステークホルダーの皆様のご期待に沿った経営を実践するため、特に3つの視点を重視した施策を展開しています。

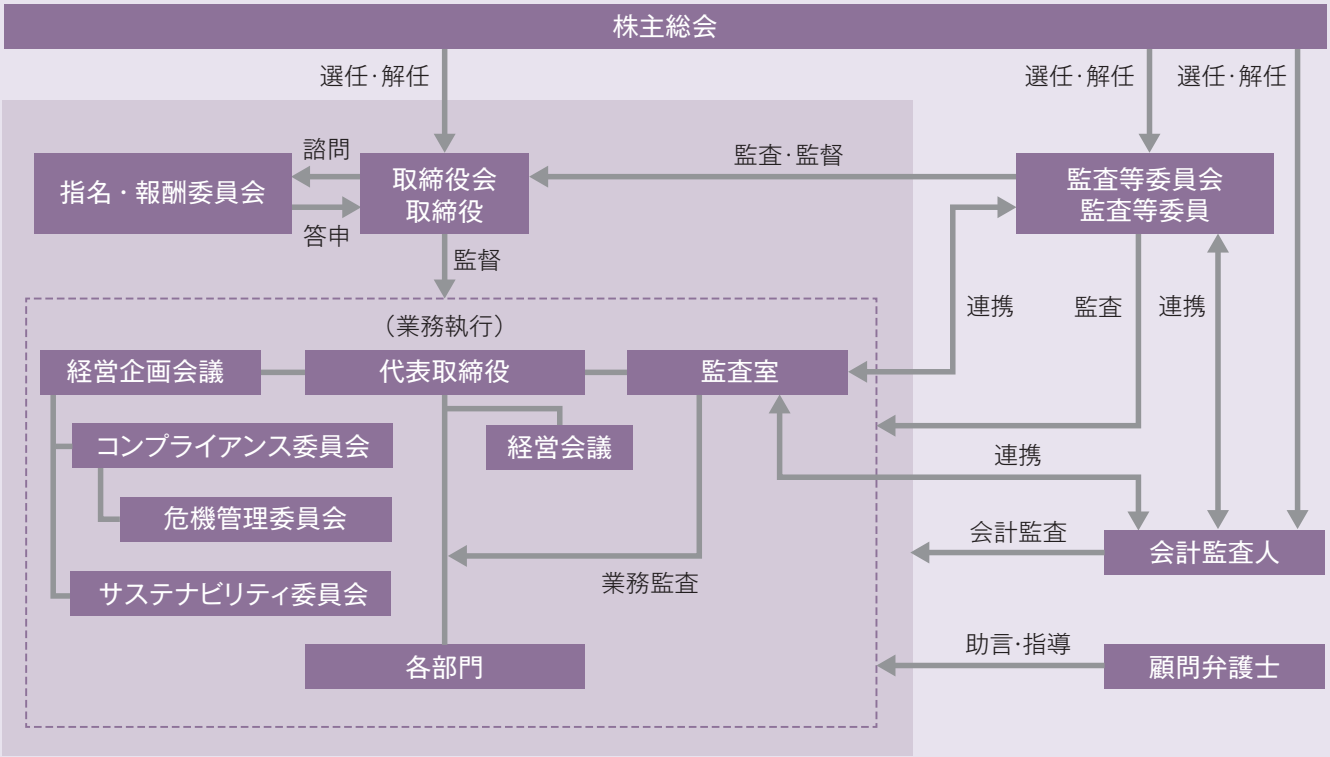
●資本市場や株主各位をより強く意識した経営の実践
●経営の意思決定体制の強化と迅速性の向上
●経営監督機能の強化

コーポレート・ガバナンス体制において、その有効性をより高度に発揮できるように、執行役員制の導入、取締役の人員の適正化、経営会議体などの充実を図っており、これらの施策が有効に機能していると判断しています。

養命酒製造は、監査等委員会設置会社であり、監査等委員は社外取締役3名となっております。社外役員は、独立的な立場から経験・見識等を活かした経営の監督または効率的な監査を行うとともに経営全般についての助言や意見交換を行っています。

また、コンプライアンス体制についても、コーポレート・ガバナンスの根幹であるとの認識に基づき、法令を遵守することはもとより、社会規範を尊重し、企業の社会的責任を意識した企業倫理を確立してまいります。

体制図



内部統制システム

会社法に基づき「内部統制システム構築の基本方針」を取締役会にて決議し、整備に努めております。当社の内部統制システムに関する基本的な考え方と体制の整備状況については、「コーポレート・ガバナンス報告書」で開示しています。

内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況（一部抜粋）

1.取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

（1） 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するため行動規範を定め、個々の役職員が遵守するよう推進を図るとともに、「コンプライアンス委員会」を設置し、コンプライアンス意識の普及及び啓発を行う。

（2） 使用人の職務の執行は、各関係部門が法令及び定款に適合することについて確認するほか、必要に応じて法律チェックの担当部署又は顧問弁護士に指導を受ける。

（3） 代表取締役社長の直轄の内部監査部門が職務執行に関わる関係法令、経営方針、社内規程その他規範の遵守が行われているか内部監査を行う。

（4） 「内部通報制度運用規程」を整備し、取締役及び使用人は、不正、違法、反倫理的行為が発生した場合又はその恐れがあると判断した場合は内部通報する。違法行為等が確認されなかった場合を除き、コンプライアンス委員会は、調査及び対応を行い、その結果を代表取締役社長に報告する。

（5） 反社会的勢力とは一切関係を持たない旨を行動規範に定め、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体に対しては警察や顧問弁護士等と連携し、毅然として対応する。

2.取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役及び執行役員の職務の執行に係る取締役会、経営会議、経営企画会議等の議事録、稟議書その他の重要な情報は、社内規程に従い適切に保存管理する。また、これらの文書は取締役の要求があった場合、速やかに提出する。

3.損失の危険の管理に関する規程その他の体制

（1） 業務活動全体におけるリスク管理に関しては、各関係部門で規程及びガイドラインの制定並びに研修の実施を行うとともに、経営企画会議の直轄の「コンプライアンス委員会」及びその諮問機関である「危機管理委員会」が社内規程に基づいてリスクの把握・リスク対策の検証を行う。

（2） サステナビリティ経営におけるリスク管理に関しては、経営企画会議直轄の「サステナビリティ委員会」が社内規程に基づいてサステナビリティ経営における重要な危機の洗い出し及び重要な危機に関して各部門が構築する予防・対応策の検証及び改善策の策定を行うとともに、重要な危機にかかる事項は社内規程に基づいてコンプライアンス委員会に報告する。

（3） 代表取締役社長の直轄の内部監査部門が内部監査計画等に基づきリスク対策の有効性の評価を行う。

（4） リスクが発生し、重大な損害が予想される場合には、「コンプライアンス委員会」が対応するとともに、代表取締役、監査等委員会、取締役会及び経営企画会議に報告する。

リスクマネジメント

コンプライアンス上のリスク把握や事業継続上の危機管理、お客様情報等機密情報の漏えいリスクなど、社会・環境・経済面で想定される多種多様なリスクに対応する体制づくりを進めています。リスクマネジメントの体制強化のために「コンプライアンス委員会」の諮問機関として「危機管理委員会」を設置し、予想される様々なリスクの管理、責任体制及びディスクロージャーを含む迅速な対応の確立に努めています。

実際にリスクが発生し、重大な損害が予想される場合には、「コンプライアンス委員会」が対応するとともに、代表取締役、監査等委員会、取締役会及び経営企画会議に報告することとしています。また、事業活動全体におけるリスク管理は、各関係部門で規程やガイドラインを制定し、これらを社内に周知するための研修を行うとともに「危機管理委員会」が社内規程に基づいてリスクの把握とリスク対策の検証を行っています。

コンプライアンス

法令を遵守することはもとより、社会規範を尊重し、企業の社会的責任を意識した企業倫理を確立すべく行動規範を定め、個々の役職員が遵守するよう推進するとともに、コンプライアンス経営の強化を図り、「コンプライアンス委員会」の設置や「内部通報制度運用規程」の制定などにより、法令はもとより社会規範や企業の社会的責任（CSR）を意識した企業倫理の確立に向けて、総合的なコンプライアンス体制の確立を進めています。

公正な取引

調達にかかわる法規制やルールを遵守することはもちろん、お取引先との公正で透明な取引を徹底するため、「養命酒製造　行動規範」において「私たちは、公正、透明、自由な企業間競争ならびに適正な取引を行い、不当あるいは不正な手段による利益追求は行いません。」と定めています。

情報セキュリティ

当社は、全ての情報資産に対する機密性、完全性、可用性の確保・向上のため、情報セキュリティに係る規程・基準のもと、情報セキュリティ管理体制を構築し、情報資産に応じた適切なセキュリティ対策の実施、全役職員に対する教育訓練の実施等に取り組んでいます。

適正な情報開示

株主・投資家の皆様をはじめとする全てのステークホルダーの皆様に対する責務として、経営情報、事業活動等に関する情報を公平、積極的かつ適時・適切に開示するよう努めています。また、当社の情報開示についての基本姿勢は、「養命酒製造　行動規範」の中に「株主をはじめとするステークホルダーや社会とのコミュニケーションを広く行うとともに、積極的に公正、透明な企業情報の開示を行う」よう定めており、代表取締役社長がこれらの事項について役職員に周知しております。

情報の開示に際しては、情報収集段階での迅速性、網羅性に留意し、情報の分析・判断にあたっては適時性、適法性、正確性、公式性を旨とし、公表段階においては公平かつ積極的に開示を行うよう努めています。

会社情報

会社概要

社名	養命酒製造株式会社　YOMEISHU SEIZO CO., LTD.
所在地	東京都渋谷区南平台町16-25
設立	1923年（大正12年）6月20日
資本金	16億5,000万円
事業内容	養命酒、酒類及び医薬品等の製造・販売 飲食店及び売店の経営、不動産の賃貸 自然エネルギー等による発電事業及び 電気の供給、販売等に関する業務
事業年度	毎年4月1日より翌年3月31日まで
ホームページアドレス	https://www.yomeishu.co.jp/

事業所

本店	〒150-8563	東京都渋谷区南平台町16-25	電話 03-3462-8111
大阪支店	〒553-0003	大阪府大阪市福島区福島6-2-6 大阪安藤ハザマビル4階	電話 06-6455-5700
駒ヶ根工場	〒399-4117	長野県駒ヶ根市赤穂16410	電話 0265-82-3311
商品開発センター	〒399-4601	長野県上伊那郡箕輪町中箕輪2132-37	電話 0265-79-5678
くらすわ本店	〒392-0027	長野県諏訪市湖岸通り3-1-30	電話 0266-52-9630
鶴ヶ島太陽光発電所	〒350-2204	埼玉県鶴ヶ島市鶴ヶ丘331-1	電話 03-3462-8192

次のすこやかさへ、一歩一歩

Yomeishu

JPX
1955年東証上場

2025